ICHIKAWA INTERNATIONAL EXCHANGE ASSOCIATION NEWS　市川市国際交流協会会報

I.I.A.ニュース

No.69
2018.9.27

市川市青少年代表団派遣

楽山市へ

ガーデナ市へ

楽山大仏

ガーデナ市市章

3月の募集開始から、面接、選考を経て、5月にはガーデナ8名、楽山7名の派遣生が選抜されました。また、今年度から市職員の引率に加えて、IIA青年・学生委員会から1名の引率者が同行することとなりました。20名という多数の応募があったこと、過去2回にわたり中止された楽山市への派遣が実現したことは、今後の青少年交流事業に明るい材料となりました。

ガーデナ市への派遣は、8月2日～11日、楽山市へは、8月3日～12日のいずれも10日間にわたって行われました。本号では、それぞれの派遣先での活動、派遣生の感想などを写真とともに報告します。（関連記事P2～P3に掲載）

5月から７月にかけて、計7回のオリエンテーションで派遣先の情報、市川市紹介のための知識、英会話（**写真左下**）、浴衣の着付け（**写真中下**）、テーブルマナー（**写真右下**）、市内見学など事前の学習に努めると同時に派遣生同士のチームビルディングを図りました。市長表敬訪問（**写真上**）では、個々に派遣への抱負を語り、市長から激励を受けました。

◆もくじ◆

P2…ガーデナ市、楽山市派遣生
P3…派遣生帰国報告会　メダン市青少年代表団来日
P4…楽しい語学講座　防災訓練
P5…日本語講師ブラッシュアップ研修　サバイバル日本語教室
P6…川越バスの旅　インドネシア料理　講演会「アメリカのお墓と柳」
P7…わたしの母国、わたしの市川
　　講演会「奇蹟のフランス大統領マクロン」
P8…CUCサマープログラム　イベント情報　他

編集・発行：市川市国際交流協会広報委員会
発行責任者：篠原　剛
〒272-0021
市川市八幡2-1-7　第一藤ビル２F
Phone:　047（332）0100
Fax:　　047（332）0101
email:　info@iia21.jp
URL:　　http://www.iia21.jp

「カリフォルニア生活をエンジョイ」ガーデナ市派遣生

ガーデナ市派遣生

秋山桃歌（白百合学園）、上村真子（桜蔭高校）、金田春香（共栄学園）、関山陽人（敬愛学園）
竹中孝輔（県立国分高校）久居南輝（県立国分高校）、丸山真希（和洋国府台女子高校）、三浦遥（県立国分高校）

引率者

小池智之（市国際交流課）、関山千紗（IIA青年・学生委員会）の合計10名です。

ガーデナでは、ホストファミリー宅に7泊し、アメリカの生活を肌で体験、家族とのコミュニケーションにトライしました。ガーデナ市長、市議会議員への表敬訪問、市庁舎、図書館、姉妹都市公園、美術館、有名観光地、テーマパーク、大リーグ観戦、サマーキャンプ、プールパーティなど盛りだくさんのスケジュールをこなしました。毎日の行動にはガーデナ姉妹都市協会の人々や青少年が同行し、ここでもコミュニケーションにトライです。

最終日の夜は、ナカオカ・コミュニテイセンターでサヨナラ・パーテイが開かれ、市川市の紹介プレゼンテーション、英語落語、恋ダンス、合唱（世界に一つだけの花、We are the world）を披露しました。8月9日、ホストファミリーと涙のお別れをしてサンフランシスコへ向いました。

シリコンバレーでは、アップル・パーク、スタンフォード大学を見学、出張で渡米されていた市川市長と友人の外務省の方（在米大使館駐在）から話を聴く機会もありました。8月11日、充実した10日間を過ごし、日に焼けた10名が無事帰国しました。

ガーデナ市の皆さんが歓迎

市庁舎への表敬訪問訪問

さよならパーティー

「中国文化に圧倒される」楽山市派遣生

楽山市派遣生

子安美森（県立千葉女子高校）、髙松柊斗（早稲田大学高等学院）、田中博章（日本大学第一高校）、中島優香子（県立市川東高校）、藤田駿（法政大学高校）、藤村幸輝（安田学園高校）、山口駿弥（県立千葉高校）

引率者

川和田遼（市国際交流課）、渡辺深鈴（IIA青年・学生委員会）の合計9名です。

前回の派遣から8年ぶりとなった楽山市への青少年派遣。初日にいきなり台風の影響で飛行機が遅れ、成都まで22時間かかるといったハプニングがありましたが、その後は無事に楽山市へと入りました。

楽山市では世界遺産である楽山大仏や峨眉山はもちろん郭沫若記念館などを見学したほか、楽山市役所で市長表敬訪問を行い、文化芸術館で伝統文化と中国琴の演奏を学び、峨眉山文武学校で峨眉山拳法の手ほどきを受ける等、盛り沢山の行程でした。とにかくダイナミックな中国の文化そして四川料理の辛さ（麻辣！）に圧倒されっぱなしの楽山市派遣生でしたが、送別会ではそれに応えるように「ソーラン節」の踊りや「旅立ちの日に」の合唱、市川市の紹介プレゼンテーション、楽山の人々を巻き込んでの日本の遊び紹介など、エネルギッシュな発表を行いました。

最初は緊張していたホストファミリーともすっかり打ち解け、8日目の成都へと発つ朝には皆名残惜しそうにバスから手を振っていました。

楽山大仏

楽山市を出てからは、眉山柳江古鎮と成都パンダ基地を見学し、陳麻婆豆腐で最後の四川料理を食べたあと北京へと飛びました。そこではゲリラ豪雨に遭いながらも天安門広場と故宮博物館で中国のパワーを感じ、8月12日に9名揃って無事帰国しました。

送別会でソーラン節を披露

文化芸術館

市川市青少年代表団派遣帰国報告会

帰国後の8月17日、午前の市長（代理）への帰国報告会と夕方からのIIA主催の帰国報告会が開催され、派遣生・引率者のほか、派遣生の家族、IIA会員など50名以上が出席し、派遣生の報告を聴きました。一番の関心は、派遣生個々が今回の派遣を体験して、何を感じ、将来にどう生かそうと思っているかを聴くことです。

ガーデナ派遣生からは、英語、コミュニケーションという言葉が多く出てきました。英語を話すのが怖い、でも挑戦するうちだんだんと通じるようになった、ガーデナの人は熱心に話を聴いてくれる、同年代の人たちも人と人の直接の会話を大切にしていてスマホに頼らない。自分たちに比べ、ガーデナの同年代は大人と感じた、一人一人が自立しているようだ、政治への意識も高く、自分は社会の代表でもあるという意識がある。もっと英語を勉強したいという刺激となった、英語力をつけて是非再訪したい・・・などです。

楽山派遣生からは、中国の異文化への驚き、大陸の雄大さ、日本との違いを肌で感じたという感想が多かったようです。違いはあっても人と人は一生懸命、笑顔でコミュニケーションを図れば、気持ちが通じる、中華料理は辛かったがおいしかった、楽山の人は家族の絆を大切にしていることが分かった、大気汚染もなく楽山は美しい街、中国のイメージが変わった、ツアーでは行かない楽山という街に行けたことは貴重な体験、他の中国の都市も訪ねてみたい・・・などです。

報告会の最後に、派遣先でのプレゼンテーションから、落語、恋ダンス、ソーラン節、合唱を再演してくれました。

いずれも派遣生たちが自分たちで作り上げたプログラムで、楽しそうに演じているのが印象的でした。

派遣生全員で挨拶

ガーデナ、楽山とも充実した派遣となったようです。派遣生たちは皆、今回の体験の機会を与えてくれたすべての人たちに感謝し、この経験を将来に生かしたい、国際交流にも貢献したいと述べました。若い力に期待しましょう。

（広報委員　山本　怜　協力　国際交流課）

いい思い出ができましたか　メダン市青少年代表団来市

酷暑の8月21日、メダン市から、150名の応募者から選ばれた、9名の青少年代表団（男子2名、女子7名の高校生）と、引率の梅田ハルオさんが、市川市を訪れました。

市川市少年自然の家で、布団のたたみ方を習い、食後の片付け、自室の清掃をしました。インドネシアの家庭では、お手伝いさんや、運転手さんがいるため、自分でしたことがない派遣生は、最初は戸惑いながらも懸命に取り組んでいました。梅田さんは、派遣生に「右手に鉛筆、左手にノートを持って、見たこと、聞いたこと、体験したこと等を、メモしなさい」と、言い続けたそうです。現代っ子の派遣生は、ノートではなく、スマホに、記録していました。

民族舞踊を披露するメダン市派遣生

2日目は、市長、議長を表敬訪問後、千葉商科大学でのアニメアフレコや、市内で梨もぎ体験を楽しみました。夕方にホームステイのご家族と対面しました。今回もホームステイを引き受けてくださる家庭が少なく、2家族が女子3名を引き受けて下さいました。もっと多くの家庭でホームステイを体験していただきたいと思っています。

県立国分高校で、書道・生け花・茶道を体験し、チアガールのダンスを鑑賞し、派遣生が民族舞踊でお返ししました。浅草寺見学、地下鉄初乗車、市川市動植物園視察、行徳で神輿見学、若葉インターナショナル行徳園では、幼児と交流、東京ディズニーランド見学、そして軽井沢へも足を伸ばす盛りだくさんのスケジュールでした。派遣生が一番楽しかったのは、学生会の人たちと行った東京ディズニーランドでした。

一番美味しかった日本料理は天ぷらだったようで、日本に来る前に日本食の試食会をしてきた派遣生は、いつ日本食が出てくるか待ち遠しかったようです。私達は派遣生に、気を遣ったつもりで、インドネシアの食事に近い料理を準備してしまいましたが、もっと彼らの思いを事前に理解して対応すべきだったと反省しました。

派遣生からは、日本の伝統文化もさることながら、市川市の自然環境への取り組み方や、インフラ状況をもっと見たかったとの感想もありました。

歓送会では、90名の参加者の前で、民族舞踊を見せてくれました。村越市川市長の「メダン市を基点として、両国の親善に力をつくしてもらいたい」の言葉通りに、メダンの青少年代表団員が、友好の架け橋になってくれることを心待ちにしたいと思います。

Sampai berjumpa lagi
また会う日までさようなら

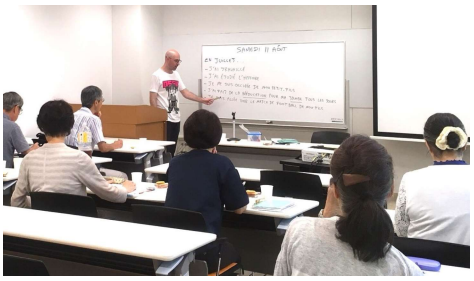
（メダン市委員会　青野　雅子）

千葉商科大学で少林寺拳法を体験

楽しい語学講座　フランス語・英語・ドイツ語

フランス語講座

7月14日から「♪サミュエル（Samuel）の楽しいフランス語♪♪」が始まりました。このフランス語講座は全5回を予定しています。Samuel Le Youdecさんは今年1月にイッシー市委員会で開催した「フランス料理講座ガレット＆クレープ」の講師をしてくださった先生です。第1回目は参加者の自己紹介をフランス語で発表し、参加者は自信？をもって今回の講座に臨みました。　毎回、10人～15人前後の参加者で楽しく勉強しています。約1時間半を使って、毎日の自分の生活で使うフランス語を話します。フランス語のわからない人は、Samuelの黒板に書いたフランス語をそのままフランス語で発音してみたり、最近自分が体験したことをフランス語で言ってみたりしています。フランス語のわからない人は、日本語で言えば、Samuelがフランス語で詳しく説明してくれます。



♪Samuelの 楽しいフランス語♪♪

Merci！　第2回目（8月11日）は動詞（aimer/好き）を使って、自分で言ってみました。黒板を見ながらの人もいますが、J' ai fait de la r••ducation（リハビリをしました）とか、ゴキブリ（cafard）は嫌い！という人も！！その後は、Samuelの故郷、Rennesを地図と写真を見ながらフランスのどこなのか位置を確認していきます。な～んだ、Rennesは、ブルターニュの県庁所在地で、今流行りのモンサンミッシェルのすぐ近くなんだ！次回以降は、オンフルール、ルーアン、ジベルニー、シャルトルなどもやりますよ！進化する「♪Samuel 楽しいフランス語♪♪」です。

（イッシー市委員会　町田　孝道）

英語講座

通翻委ではドイツ語、中国語は定期的に勉強会を開催し、活発に自己研鑽とコミュニケーションを図っていました。

最多人数の英語部会も全体会で要求があったものの実現されないできました。それが昨年10月ついに実現されました。最初は5，6人の待望していた人が集まり、核になり徐々に数を増やし最大19人になったことも。通常会場にしていたIIA事務所は満員で熱気に包まれました（写真）。

リーダーは会員と外国人が担当します。これまでのトピックはゴミ屋敷、アルツハイマー、平昌オリンピックなどなど。身近な話題で英語力アップを目指すだけでなく、楽しく会員間のコミュニケーションを向上させ、顔の見える開かれた通翻を目指しています。興味がありましたら是非のぞいてみてください。きっと何かを感じていただけるかと思います。　（通訳・翻訳委員会　篠原　剛）

ドイツ語講座

ローゼンハイム市委員会の「楽しいドイツ語講座」では難解な独文法から学ぶのではなくドイツ語を書いたカード等を事前に準備して配布し、その状況ごとに合わせたドイツ語での返答の仕方などをゲーム感覚で勉強する方法を行っています。皆さんの積極的な参加をお待ちしております。

（ローゼンハイム市委員会　桑原　純子）

防災訓練　IIA協力

防災の日の今日9月1日、防災に力を入れているIIAは、9時過ぎに外国人の人にも防災意識を持つ重要さをわかってもらおうと、大洲防災公園に集まってもらいました。

地域防災課が特別に外国人の人にもわかるように丁寧に説明しました。世界の地震の10%が日本に集中している、それに加え近年特に台風、集中豪雨、土砂災害も多い。地震は台風などと違い予測ができないので、普段から備えをしていなければいけない。津波が来そうな場合はまず高いところに逃げる。家族で逃げる場所を確認しておく、災害が起きたら伝言ダイアルや災害伝言板を使って互いの安否を確かめるなど、とても有意義な情報ばかりでした。

10時からは救助訓練。災害救助犬が倒壊した家屋に遭難者を発見。チェンソーで屋根に穴をあけ、救助。被災した2階の建物からは、はしごで被災者を救助し、救急車で搬送。救護所ではトリアージしながら救急処置。我々の仲間は病気を患っている要配慮者として救護施設へ。そのほか、電気の供給が絶たれたところに、東電が応急処置の電気供給。京葉ガスがガス漏れの地点で処置をするなど盛りだくさんの訓練でした。

実際の炎を前に消火訓練

その後我々も参加して消火訓練、地震体験、煙中避難などをしました。この訓練を見学した人、体験した人は災害の恐ろしさと、それに対処する方法など35度の炎天下にもかかわらず貴重な体験ができ、突然の災害でも、この訓練はきっと役立つものと思います。

（広報委員会　篠原　剛）

日本語ボランティア講師ブラッシュアップ研修

日本語教室委員会

7月23日、行徳公民館で、現在日本語ボランティアとして活躍中の人達のスキルを更に磨く研修を行い、28名が受講された。開催は5年振りであり、皆さん既に教えていらっしゃる人達でニーズも様々なので、内容には迷ったが、下記の考え方で実施した。

1. テーマは「最近の教材・副教材の上手な使い方」とする。
＊最近のネット上の教材の充実は目をみはるものがあり、数も多く、質も高い。学習者の方がよく知っていることもある。
2. 市川地区・行徳地区の両方で同じ研修を一回ずつ行う。
＊過去、どうしても市川地区の開催が多くなっている。
3. 講師はAJALT（注）に依頼する。（今回は新野講師）
＊昨年の新人講座での実績、過去の評価から。
4. 受講料は無料とする。
＊多い人は年間100日前後、時間を割かれている人達が対象。

実施の結果、新しい教材を色々知ることができた以外に、「今までモヤモヤしていたものがストンを落ちた」「テキストを教えるんじゃなくて、テキストで教えるという言葉に納得」というような評価が出ているので、まずまずだったとは言える。ただ、受講者のレベル幅も広いので、別の評価もあるはずなので、2月の2回目に活かしたい。

研修後14名で懇親会を行ったが、良い雰囲気の中で教室運営上の様々な意見が出て、意義深いものとなった。

過去日本語教室の懇親会はほとんど無く、横の意見交換が足りなかったという意見が多いので、機会を捉えて懇親を深めて行きたい。

（日本語教室委員長　西依章郎）

（注）AJALT：公益社団法人　国際日本語普及協会

ユーモアたっぷりの講義を熱心に聞く日本語ボランティア

サバイバル日本語教室 in いちかわ 2018

IIA

夏休み恒例のイベント「サバイバル日本語教室」が酷暑の中、8月26日に行われました。

12回目を迎えた今年はメダンの高校生受入れと時期が重なり、午前は駅南公民館で日本語活動、午後からバス遠足と1日に短縮しての開催となりました。

いつもとは逆に、行徳に集合した子供とボランティアは送迎のバスで、市川駅集合組は徒歩で初めての会場へ向かい、合流しました。

中国・フィリピン・タイ・インドネシア・ネパール・インドから29名の申込みがありましたが、残念ながら暑さが原因の体調不良で5名が欠席でした。

リピーターが4名、来日間もない初参加が20名（内9名が9月から学校へ編入）の24名と保護者8名、ボランティア28名の合計60名が参加しました。

開校式の後、それぞれの国旗カードを胸に掲げて自己紹介。まだ恥ずかしくて小さかった声が、次の「学校の言葉絵カード」のゲームで段々大きく元気になりました。

その後の工作タイムでは、シールを貼ったり絵を描いたりして世界で１つの「マイうちわ」を作り、満面の笑みで記念撮影。言語別にグループを変え、遠足のスケジュール確認と「火事」「地震」「津波」について学んだら、松戸の西部防災センターにいざ出発です！

お待ちかねのランチの後、消火器の使い方を教わり、煙の中を避難し、地震、台風も体験しました。119番通報の場面では、同行した保護者が「子供が喘息なので救急車を呼ぶ時の練習をしたい」と積極的に参加したり、とても良い経験だったと多くの感想がありました。

翌週の総合防災訓練にも3組の親子が参加してくれました。新しい友達との楽しい思い出を胸に、9月からみんな笑顔で学校に通っているでしょうか？

少しでもそのお手伝いが出来たらこんなに嬉しい事はありません。協力して下さったボランティアの皆さん、本当にありがとうございました。

（日本語教室委員会　近藤　明子）

国旗で自己紹介

満面の笑みで・・　はいパチリ

台風を体験

バスツアー 炎天の小江戸：川越バスの旅　異文化交流委員会・外国人委員会

7月15日35度の酷暑の中、各国の友達46人を乗せたバスは、遅れた1組を待ち40分遅れで市川を出発し、一路、小江戸と呼ばれる川越を目指しました。6月に開通した外環道はピッカピカの新品です。渋滞なく1時間足らずで到着。まず喜多院で歴史の勉強。江戸城から客殿、書院を移築したという由緒ある建物内を興味深く見て回りました。この後が大変。ここから少し離れた蔵造りゾーンまで炎天下30分を歩きました。グループの班長さんは頻繁に皆に水分を取るように注意し続けました。無事辿り着いてやっとランチ。これがまた丁度昼だったので30-40分待ち。名物三元豚、大根べっ甲煮、などを楽しみました。そのあとがまた大変でした。40度近いのではと思われる中、観光客でごった返す歴史ある古風な街並みを、もうろうと歩きました。店はいっぱいで入れません。日影がありません。古風な鐘楼風「時の鐘」があったような気がします。名物の芋菓子を売っていたような気がします。

喜多院の前で

もうだめです。早めにバスが待つ駐車場へ。ここでまた事件です。近隣との約束で全員が集まるまでバスのエアコンが使えないとのこと。遠くで誰かがエアコンがなければ私は死んでしまうと叫んでいるような声がします。私は必死に人数を数えまくりました。46名になれば、46名になればエアコンが使えると。死ぬことはなく定刻3時に出発。疲れ切って静かになり市川に無事戻りました。

（篠原　剛）

インドネシア料理会　メダン市委員会

最高気温34度の猛暑の中、クーラーのない新浜小学校家庭科室で、8月4日、インドネシア料理会を開催しました。

講師は、インドネシアのお母さん、チトラさん、ダニさんと通訳のイチャさんです。お客様は日本語教室に通ってくる、小学校低学年から中学生のインド・インドネシア・中国の子ども達と先生方16人です。

最初に「アヤム・バカール」という、インドネシアでお祝いの日に食べる鳥肉のグリルを教えてもらいました。8種類のスパイスで鳥のもも肉を煮てから、フライパンで、甘いケチャップを付けながら焼きます。大きなお皿に、鳥のもも肉、温かいご飯、生野菜を盛りつけ、スプーンとホークで食べました。チトラさんお手製のサンバル（辛み調味料）をお料理にかけると、一層美味しくなりました。次は、「エス　チェンドル」というココナッツ飲料です。寒天と米粉で餅を作り、ピンクや緑に着色し、熱いうちに搾り器に入れて短いうどんのような物を作ります。インドネシアの搾り器は、ところてん突きと異なり大きなマグカップの底に小さい丸い穴がいっぱいあいていました。透明のカップにピンクと緑色のチェンドル、黒色のカラメルソース、白色のココナッツミルクソース、氷を入れ、最後にインドネシアのジャンボな果物、黄色のナンカを細かく切った物を浮かせ、南国的な色彩の華やかなジュースになりました。

おいしい！！インドネシア料理

子ども達にも、大人の参加者にも鳥肉の料理も、ジュースも大変喜んでもらえて、残さず食べてくれました。汗水垂らして、一生懸命作ってくださったインドネシアのお母さんと、11名のIIAのお手伝いの皆さんのお陰と感謝します。インドネシアはとても暑い国なので、スパイスたっぷりの料理や、甘い物を飲んで、スタミナをつけていることがわかりました。日本も最近とても暑いので、インドネシアを見習うようになるのでしょうか。

さて、来年はどんな料理にしようかなと今から楽しみです。

（青野　雅子）

講演　講演会　「アメリカのお墓と柳」　ガーデナ市委員会

8月24日、台風の影響が少し残る中、全日警ホールで、黒沢眞里子氏（専修大学文学部教授）による講演会が30人近い聴講者を集め開催されました。ユニークなテーマの通り、講師のお話しとスライドは私たち日本人のお墓の概念を超えるもので、みなさん興味深く熱心に耳を傾けていました。　講演は、①アメリカの墓石彫刻のデザインが‘骸骨’や‘天使’から徐々に死や復活を意味する‘柳’へと変わっていったこと　②墓地は植民地時代の町中の簡素な集合墓地から広大な庭園墓地、公園墓地、さらに西海岸では巨大なメモリアルパークへと変遷していき、それらは一般の人の散策の地、憩いの場所でもあったこと　③スエズ運河が出来る前の19世紀、セントヘレナ島は海上航路の要衝であり、そこを訪れた多くの人がナポレオンの墓の傍に植えられた柳の枝を記念に持ち帰り、その挿し木が世界各地で植えられ『ナポレオンの柳』として現存していることなど、目から鱗の内容が盛り沢山で、他にも、アメリカには日本のお墓の値段からは想像できないくらいのアメリカ的超高額墓所があるという話しにはびっくりでした。

ユニークなお墓の話で興味津々

大好評で終えた講演会の後は、講師を囲んでの2次会で大いに盛り上がりました。

（折笠　清介）

シリーズ

わたしの母国、わたしの市川（13）　マレーシア

ジェイミ・コー・カイ・マンさん　(Jamie Khor Khai Mun)

ジェイミさんとご主人のトミーさん

I am Jamie from Malaysia. I have been staying in Japan for 3 years.
I came to Japan because of my husband,Tommy's career.He is a Chef in Hotel New Otani.
His speciality is Asia's food.I like Malaysia cuisines absolutely, especially 'Nasi Lemak'
But I love Japanese cuisines too. Japanese cuisines are delicious.The shops are superbly clean and Japan is a safe country to live.But the cost of living in Japan is high.
As in Malaysia, I lived in Kuala Lumpur. I was amazed with the panoramic view from the Malaysia Twin Tower.
Frankly speaking, when I came to Japan, I felt so lonely.
I was jobless,no friends, and zero knowledge in Japanese.I was being at home for long.

Fortunately, I got to know about Japanese class via a new friend of mine.
On Wednesdays,I attend my Japanese class.At the class, I met with many teachers and friends from various countries. The teacher teaches me things beyond Japanese too.
Although my husband told me that he was busy with work and had no time for Japanese class, I grabbed his arm to accompany me to the class. And for now, he seems to be so happy in attending the classes.Now, I got a job but is working three times a week. I am working in a meat factory at Yachiyo-Midorigaoka. My job is to weigh the meat.Recently, I have learnt a new task. I cut the meat using the machine cutter. The work is complicated as the meat needs to be cut in various sizes accordingly. The colleagues are friendly, kind and always being helpful to me.Hence, I enjoy my work tremendously.Operating a kindergarten is my dream. To fulfill my dream, Iam working desperately till now.

日本語教室の勉強風景

私はJamieです。マレーシアから来ました。私は3年間日本に住んでいます。日本へ来たのは主人の仕事のためです。主人のトミー（Tommy）はホテルニューオータニのシェフです。アジアの料理が得意です。私はマレーシアの料理は勿論好きで、特にナシレマ（Nasi Lemak **写真上**）が好きですが、日本料理も大好きです。おいしいし、お店もきれいだし、安全だし、でも値段は高いです。

マレーシアではクアラルンプールに住んでいました。マレーシアのツインタワーからの景色が好きでした。

実は最初日本に来た時、私はとても寂しい気持ちでした。

仕事が無くて、友達もいなくて日本語もわかりませんでした。ずっと家にいました。

幸いにも、私は友達から日本語教室を教えられました。

水曜日は日本語教室に通うようになりました。授業で先生や色々な国の友達に会いました。先生は日本語以外のことも沢山教えてくれます。主人は仕事が忙しいと言って、日本語教室に行きたがらなかったのですが、腕をつかんで連れて行きました。今では主人も教室に行くのがうれしそうです。

今、私も働いています。でも1週間に3日間です。八千代緑が丘のお肉の工場で仕事をしています。お肉の重さを計っています。最近、新しい仕事を習いました。機械でお肉を切る仕事です。肉のサイズもまちまちでとても難しいです。

でも同僚が優しくて、色々助けてもらるので、仕事はとても楽しいです。

私の夢は自分の幼稚園を持つことです。私は夢を実現させるために、これからもがんばります。

講演

講演会　「奇蹟のフランス大統領マクロン」　イッシー市委員会

6月9日全日警ホールにて講師に元NHK国際経済担当解説員の伴野文夫氏をお迎えし、演目が「フランス大統領マクロンが地球を救う」という講演会を開催しました。今後の世界はフランス大統領マクロンがキーマンとなって動いていくだろうという方向を語られ、アメリカ一辺倒な日本人には大胆とも思える内容でした。

参加者40名を超える満員盛況となりました。伴野氏は80歳半ばとは思えないほどの確信に満ちた語り口で、時にユーモアも交えながら2時間近くの講演会は熱気に満ちた集いとなりました。伴野氏によると、マクロンの登場は奇蹟的で、政治的な立場は中道、右と左を融合するSyncretisme（集合）が彼の理念と言える。ユーロは絶対に崩壊せず、ヨーロッパ議会のシステムを強化するだろう。そして、マクロンは自分の結婚・家族をはじめとして一貫した「愛」に貫かれており、それが最終的には地球愛に通じ、世界を変える基軸・原動力である。

以上の話は熱気を帯び参加者の関心を大いに引きました。

（町田　孝道）

熱気を帯びた講演

CUCサマープログラム　浴衣と打ち水で日本の夏を体験　IIA協力

今年も海外の学生を招き日本の経済や文化を学ぶ「CUC(千葉商科大学)サマープログラム」が開講され、日本伝統文化体験の場として浴衣と打ち水の体験が行われました。１１ヵ国、51人の学生の中には、ローゼンハイム応用科学大学の学生４名（男子３名、女子１名）も含まれていました。

7月17日、ホールにずらりと並んだ浴衣と帯をＣＵＣの学生とともにIIA会員井上馨さん以下26人のお手伝いさんが手際よく着付けしていきます。女性はヘアドレッシングもあり、時間がかかるのですが、慣れてきたのか昨年よりずっと早く着付けが終了しました。学生たちは、カラフルな浴衣と帯に大満足、互いに写真を撮りあったり、談笑したりと盛り上がっています。その後、屋外に出て打ち水の体験をしました。今年の夏は連日の猛暑で、打ち水にはぴったりの設定。複数のメデイアも取材するなか、順番に打ち水を楽しみました。それにしてもこの暑さ、学生たちは日本の夏をどう感じたのでしょうか？

（広報委員　山本　怜）

打ち水と浴衣・・インスタ映えします

イベント情報（10～12月/2018）

◆第9回　日本インドネシア市民友好フェスティバル 2018
（祝！　日本インドネシア国交樹立60周年）　（メダン市委員会）
日時：10月20日(土)～ 21(日)
場所：代々木公園
内容：インドネシアの伝統舞踊、歌、インドネシアの近代音楽
インドネシアの小学生を救うチャリティコンサート 等

◆中国語教室「中国サロン」　（楽山市委員会）
日時：10月9日（火）16:00～18:00
場所：中央公民館第2会議室
問合せ：逸見　総一郎　Phone：047-333-7412

◆講演　「アラビア書道を体験してみませんか」　（メダン市委員会）
日時：11月18日（日）　13:30～15:30
場所：市川市中央公民館 第一会議室
講師：ファタヤーニ・ターリック博士（シリア）
参加費：無料
連絡先：西村 正寛 Phone:080-8473-0253

◆楽しいドイツ語講座　　（ローゼンハイム委員会）
日時：10月28日（日）10：00~12:30
場所：中央公民館　第2会議室
日時：11月18日（日）12：30~14:30
場所：中央公民館　第2会議室
費用：500円
問合せ：後関　正 Phone：090-8720-2841
mail:gg_gtadashi@yahoo.co.jp

◆中国語研究会　（通訳・翻訳委員会）
日時：11月11日（日）、1月13日（日）13:30～15:00
場所：IIA事務所
連絡先：栗田 スミエ Phone：047-323-3041（夜間）

◆フランス語講座
日時:12月9日(土) 10:15～10:45
場所:市川公民館 第1会議室
費用:500円
連絡先：野澤 順治 Phone：090-8346-6408
小倉 光枝 Phone：047-373-4581
※講座終了後、講師のフランソワ先生を囲んでお茶会をします。奮ってご参加ください

◆第2回定例交流会「イスラムの世界を知ろう」　（異文化交流委員会）
日時：10月7日（日）集合　東西線「西船橋」(11:20)
場所：東京ジャーミイ・トルコ文化センタ（代々木上原）（14:30）
ランチはトルコ料理「アンカラ」渋谷・宮益坂店（12:30）
申込み：村井　美和　Phone：047-379-3737
篠原　剛　email：shinohara.tsuyoshi0615@nifty.com
東京ジャーミイはトルコ・イスラームの芸術あふれる日本最大のイスラームの礼拝堂です。センターの方がイスラームの世界をわかりやすく説明し、堂内を案内してくださいます。見学の前に渋谷にあるトルコ料理も楽しみます。皆様是非ご参加ください。

◆英語グループ勉強会（通訳・翻訳委員会）
日時：10月13日（土）　10:00～12:00
11月10日（土）　10:00～12:00
12月8日（土）　10:00～12:00
場所：IIA事務所 場所が変更になることがあります。
費用：無料
問合せ：傳谷 英 email:eidenya@jcom.zaq.ne .jp

市川市在住外国人登録者数及び上位10カ国の人数（2018年8月31日現在）（ ）内は前年同月数

①中国	6,332（6,046）	②韓国　※	1,506（1,459）	③フィリピン	1,490（1,446）	④ベトナム	1,398（1,072）
⑤ネパール	1,187（1,006）	⑥スリランカ	650（ 578）	⑦インド	551（ 523）	⑧タイ	467（458）
⑨台湾	360（331）	⑩ミャンマー	278（ 240）				

総数107ヵ国16,533人（110ヵ国15,379人）　市川市総人口数487,380人（484,262人）　※朝鮮人62人は含まず

I.I.A. News No. 69 Sep 27,2018

From editor:

Following the recent increase of non-Japanese speaking IIA members, we would like to make an attempt to inform the contents of IIA News in English. This is the first edition and we will continue the issue if this will be well received.

Top News

Youth Exchanges p1~3

Ichikawa City and IIA organized the youth exchange programs with affiliated cities - Gardena, Leshan and Medan. This summer 3 programs were completed.

Ichikawa Youth Delegation to Gardena (USA) and Leshan (China)

A delegation comprising of 8 high school students and 2 chaperone was dispatched to Gardena from Aug 2 to 11, while 7 students and 2 chaperone were dispatched to Leshan, from Aug 3 to 12. The delegation to Leshan was the first time in 8 years. Both parties stayed at host family houses and experienced the typical local life. Despite the differences in culture, customs and languages, students made their utmost efforts to communicate with families and friends. Visits to historical places, scenic areas, and public organizations gave them good memories. After returning to Ichikawa, the debriefing session was held on Aug 17. Students of both delegations expressed their impressions and opinions on this exchange program. They all looked happy and confident.

Medan Youth Delegation to Ichikawa

From Aug 21 – 30, a delegation of 9 students and 1 chairperson from Medan visited Ichikawa. They stayed at Omachi Shonen Shizen-no-ie on the first night, and at their host family houses for the rest of their stay. Their busy itinerary included Ichikawa City hall, Chiba University of Commerce, Kokubun High School, Tokyo Disneyland, Karuizawa and many more. Their most favorite place was TDL and their most favorite food was tempura.

IIA hosted a farewell party on Aug 29 with more than 90 attendees. Medan students performed a local dance with colorful costumes and we danced the New Olympic Ondo together.

Report on past events

Enjoy Language Lesson p4

1. Samuel’s delightful French Lesson (Issy-Les-Moulineaux City Committee)

This is a series of 5 classes. The teacher, Mr. Samuel Le Youdec can help you use French words in daily life as well as in conversation in any situations. Sometimes, he picks up an interesting topic such as his birth place in France and we enjoy the flow of conversation. Usually, we have 10 to 15 people in a class. Please join us.

2. English Study Class (ITC: Interpretation & Translation Committee)

This class started from Oct. 2017, following the other active language classes of French, German and Chinese. Recently, 19 participants enjoyed discussing some issues in English. The native speakers and our members take turns in being the leader of the study group. The topics we have discussed include, a house of full garbage, Alzheimer, Olympic and others. We aim to improve our English skills as well as promote better communication among members. Please come to join casually.

3. German Class (Rosenheim City Committee)

This class enjoys studying German not by learning difficult grammar, but by means of a card game. Each card shows a particular situation, and learns how to reply in German to every situation written on cards. We are waiting for your active participation.

Disaster Prevention Drill p4

On September 1, IIA members gathered at Osu Disaster Prevention Park to encourage foreign residents as well as Japanese to understand the importance of having a disaster prevention awareness.

At the citizens lounge, the person in-charge at the Disaster Prevention Section talked in-depth about the many disasters that occur in Japan and explained how to prepare for them.

In the park, rescue demonstrations started with the participation of the Mayor of Ichikawa. Demonstrations include, rescue efforts from a destroyed house and transport of injured persons to first-aid facilities where emergency staff are triaging. After that, we also participated in firefighting drill, earthquake simulation, evacuation from a smoke-filled room, etc. Those who took part in this training had a valuable experience despite the hot weather of 35 degrees. It will surely be useful in the event of a disaster.

Upskilling of Volunteer Japanese Language Class instructors (Japanese Language Committee) p5

Japanese Language Committee organized the workshop to improve the teaching skills of 28 volunteer Japanese language teachers, held at Gyotoku Kominkan on July 23.

The following are the main points considered for this course : ① The theme centers on how to use well the recent teaching materials. ②To open one same course in Ichikawa and Gyotoku. ③To invite the instructor from AJALT(Association for Japanese-Language Teaching) ④ The course fee is free.

This course is well accepted and evaluated highly by the attendees.

Survival Japanese Language Class p5

This class is being held every summer, for the12th time this year, to support the new comers to Japan. Twenty five students from China, Philippines, Thailand, Indonesia, Nepal and India had fun learning Japanese on Aug. 26th at Ekinan Kominkan.

They started out by making self-introductions showing their national flags. Then, they learned the names of school items in Japanese using picture cards.

After this, they took the bus to the Western Chiba Prefectural Disaster Prevention Center to learn how to prepare for the disasters. They seriously experienced the earthquake, big storm, and the use of fire extinguisher.

The participants said it was a great experience to prepare for the disaster.

Bus tour to Kawagoe (Cross-Cultural Exchange and Foreign Residents Committee) p6

On July 15th, with a sweltering heat of 35 degrees C., the city bus carrying 46 participants from different countries, departed from Ichikawa to its destination in Kawagoe, called Koedo. After arriving at Kita-in Buddhist Temple, which used to be the guest hall and study hall relocated from the old Edo Castle, we learned about the history of the temple and enjoyed its architecture. After this, we arrived at the place where we had lunch and enjoyed local pork, boiled radish tortoise, etc. We went out under the scorching temperature of almost 40 degrees and walked along the historic old-fashioned town that was crowded with tourists.

We departed on time at 3 pm. All the people on board the bus got tired and remained quiet as the bus returned safely to Ichikawa.

Indonesian Foods Cooking (Medan City Committee) p6

Aug 4 at Niihama Elementary School

We invited the school children of Japanese Language Class to the cooking class. 16 children and teachers from India, Indonesia and China attended. The instructors were three Indonesian ladies. We cooked “ayam bakar”, grilled chicken with spicy seasoning, “sambal” and coconut milk drink, “es cendol”. Everybody was so happy that they could eat all the dishes. We also learned some tips for spending the hot summer, from an Indonesian - eating spicy food and drinking sweet coconut milk.

Graveyards and weeping willows in USA (Gardena City Committee) p6

Aug 24 at Zennikkei Hall

The lecture meeting of the above theme was held with more than 30 attendees. The lecturer, Ms. Mariko Kurosawa, professor of Senshu University, told us about the design of tombs, which were replaced with weeping willows, and about their relation with the graveyard. An Interesting story is about Napoleon’s Willow which is the willow tree planted beside Napoleon’s tomb on Saint Helena Island. Many visitors to Saint Helena Island cut the tip of this willow’s branch as souvenir and plant the cuttings all over the world.

A Man on the Move-France’s Ambitious Man, Emmanuel Macron p7

(Issy-Les-Moulineaux City Commitee)

Jun 9 at Zennikkei Hall

The lecture meeting was held with lecturer, Mr. Fumio Banno, a former NHK’s commentator on international economy. The theme was “French President Macron will save the earth”, in which he mentioned that Macron will lead the world in the future. Macron will try to strengthen the Euro currency and reform the system of EU parliament. His life is always devoted to his wife and family and this will eventually lead to the love of earth.

Foreign students experience Yukata and Uchimizu p8

Jul 17 at CUC campus

CUC (Chiba University of Commerce) had a “Summer Program”, where more than 50 students from all over the world took part in. IIA helped CUC during their special class, “Experiencing Japanese Culture”, where the students practiced wearing Yukata, Japanese summer kimono, and Uchimizu, water sprinkling. The day was suitable for the Yukata and Uchimizu, as it was so hot.